

7 . 河川空間の利用状況

7 - 1 河川の利用形態

平成 12 年度河川水辺の国勢調査（河川空間利用実態調査）結果によると、荒川の年間推定利用者は約 30 万人となっており、河川利用が非常に盛んな河川である。また、前回（平成 9 年度）の調査時と比較すると利用者が増加している。荒川流域内の人口が約 4 万 3 千人であることから見ても、流域内人口に対する河川利用者数はかなり多く、多くの利用者が訪れている事がわかる。

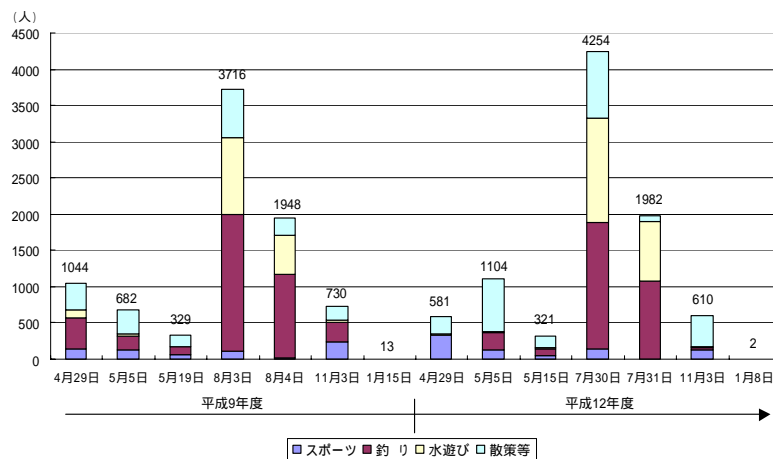


図 7 - 1 - 1 各調査日の利用状況（河川水辺の国勢調査より）

表 7 - 1 - 1 年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値(千人)		利用状況の割合	
		平成9年度	平成12年度	平成9年度	平成12年度
利用形態別	スポーツ	21	17		
	釣り	136	116		
	水遊び	58	86		
	散策等	53	64		
	合計	268	283		
利用場所別	水面	99	80		
	水際	95	122		
	高水敷	60	68		
	堤防	14	13		
	合計	268	283		

出典：河川水辺の国勢調査（H12 河川空間利用実態調査）

荒川資料（羽越工事事務所）

図7-1-1の季節毎の河川利用者を見ると、釣りや水遊びなどを楽しむ観光客で賑わう夏に集中しており、他の季節はやや少な目となっている。特に冬では降雪のために河川利用者が少ない。

利用形態では、“清流荒川”と言われるように水が清浄な河川であることから夏場のアユ釣り、カジカ取りなどが多く、釣りや水遊び等の項目が全体の7割を占めている。また利用場所では、水面及び水際が全体の約7割を占めている。このように荒川では、河川に直に触れて遊ぶ利用者が多いことから、河川空間の整備と維持を目的とした河川環境整備事業に力を入れている。



カジカ捕りまつりの光景(大石川)

出典：羽越工事事務所所有 資料



鮎釣りを楽しむ観光客(関川村上関)

出典：羽越工事事務所所有 資料



イワナのつかみ捕り大会(小国町)

出典：小国町所有 資料

7 - 2 高水敷の利用状況

荒川における高水敷の利用状況は表7 - 2 - 1に示すとおりである。荒川の現在の高水敷面積は約280haであり、その中で官有地が約85%を占めている。官有地の主な利用状況は、主に公園や緑地として使われており、地域住民の憩いの場となっている。また高水敷内にゴルフ場があり、休日を問わず多くの客が訪れている。しかし全体の約80%が未利用地となっていることから、荒川の高水敷はまだほとんど利用されておらず、自然的な利用が多い河川であるといえる。

表7 - 2 - 1 高水敷の利用状況（指定区間外）(単位：ha)

官有地								民有地							不明地	合計	
占有地								既利用地									
田	畑	公園	緑地	運動場	ゴルフ場	採草放牧地	その他	未利用地	計	宅地	田畑	運動場	その他	ゴルフ場			未利用地(荒地)
-	-	22.7	0.5	31.3	-	0	184.7	239.2	0	0	0	0	5.0	36.4	41.4	0	280.6

出典：河川管理統計資料（平成12年3月現在）

また、荒川における河川利用施設状況（占用状況）は、荒川町が約33.1ha、神林村が約11.1ha、関川村が約19.3ha、そして中条町が約0.6haの合計約64.1ha、そのうち官有地における高水敷は約54.5haとなっている。

荒川においては、清らかな水と豊かな自然、そして広大な空間を利用して、多くの公園や運動場、水と触れ合う場が設けられ、流域内外に関わらず人々のコミュニケーションの場として活用されている。その主な例として、旭橋から荒川橋にかけての区間では地元小学生の体験学習の場として、高瀬地先はかじかとり大会、関川村主催の祭りのイベントに利用されている。



花見を楽しむ人々（関川村高瀬桜つつみ）

出典：羽越工事事務所所有 資料



芋煮会

出典：羽越工事事務所所有 資料



地元の小学校主催の青空教室

出典：羽越工事事務所所有 資料